

## 3-2 教育の情報化フォーラム

本会議は、情報技術を活用した教育方法、教育内容、授業の支援組織、ネットワークの管理体制など、今後の授業改革の視点から教育の情報化にかかわる問題についてテーマ別に討議を行い、対応策を検討することを目的としている。

フォーラムの企画・運営・実施は、「教育情報化フォーラム運営委員会」（委員長：山崎和海、立正大学）を継続設置して対応した。

### （1）開催要項の決定

平成14年度の開催要項は、13年度から引き続き検討を進め、下記の通り開催計画を作成した。

基本的な方針として、前年度のテーマを根本的に見直し、大学の現状を鑑みて必要なテーマを改めて設定することとした。なお、討議テーマの決定は、例年どおり課題提起者の選定を行い、運営側との事前打合せを行った。

初日全体会のプログラムは、「eラーニング時代における教育の情報化と今後の課題」として、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科委員長の徳田英幸氏に、大学教育におけるeラーニングを中心とした教育改善の重要性と情報化のための大学としての取り組みの提議と海外大学との連携など事例紹介を含めた講演とした。

以上の方針の下、開催要項を決定し、6月21日から22日の2日間に亘り、関西学院大学を会場に開催した。

#### 平成14年度教育の情報化フォーラム開催要項

日 時 平成14年6月21日（金）・6月22日（土）  
会 場 関西学院大学 上ヶ原キャンパス

#### 【開催趣旨】

情報技術を活用した教育方法、教育内容、授業の支援体制、ネットワークの管理体制など、今後の授業改革の視点から教育の情報化にかかわる問題についてテーマ別に討議を行い、対応策を考えていくことを目的とし、開催する。

[6月21日（金）]

I. 開会

II. 開会挨拶 戸高 敏之会長（社団法人 私立大学情報教育協会）

Ⅲ. 会場校挨拶 平松 一夫氏（関西学院大学学長）

Ⅳ. 運営委員紹介

Ⅴ. 基調講演 「e-ラーニング時代における教育の情報化と今後の課題」

講師：徳田 英幸 氏（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科委員長、  
社団法人 私立大学情報教育協会常務理事）

大学では学内の情報インフラが整備され、教育への情報技術の活用が過去10年間で大きく進展してきた。一方、現実には様々な問題があり、大学教育と情報技術の関わりについてより一層の理解が必要になってきている。また、海外の大学では、インターネットや新しい情報技術を利用した様々な戦略的な取り組みがなされてきており、国内の大学の世界に向けた対応も望まれている。ここでは、大学教育の情報化における様々な問題について提議するとともに、慶應義塾大学や海外の大学での事例を紹介しながら、情報インフラ整備、e-ラーニング、電子著作物管理、サイバー・キャンパス構想に向けての今後の課題について議論したい。

Ⅵ. 私立大学情報教育協会の活動報告

Ⅶ. テーマ別自由討議

A：大学におけるネットワークセキュリティ

課題提起者：山根 勝司氏（日本アイ・ビー・エム株式会社

ネットワーク・サービス事業部ネットワークコンサルティング ICP ネットワーク・  
デザイン・コンサルタント）

根岸 征史氏（日本アイ・ビー・エム株式会社

ネットワークセキュリティ担当コンサルタント）

今日のインターネットは膨大な規模になり、なおもその成長を続けている。その一方で、セキュリティ問題も増大し、ネットワーク管理者はその対応策に追われている。キャンパスネットワークは、教育研究目的という性質上多くの不確定要素が含まれるが、それがセキュリティ管理業務をますます重負担にしている。精度の高いサービスを効率よく提供するにはセキュリティ対策ツールの導入のみならず、適格なポリシーやガイドラインを設定し、それらを組織全体に浸透させなければならない。本分科会では、ネットワーク認定・侵入検知システムの紹介を中心に、キャンパスネットワークのセキュリティ管理について討議する。

B：新たな教育システム：遠隔 e-Learningの試み ～通信教育での実践と今後の展開～

課題提起者：後藤 順久氏（日本福祉大学経済学部助教授）

栗原 英樹氏（日本福祉大学通信教育部ラーニングアドバイザー）

IT時代の到来により、従来の対面教育に代わる情報通信技術を応用した教育が模索され始めてきている。特に、インターネット技術の発展に伴い教材のダウンロードも高速化され、Web上に教材を展開する大学が増加し

てきている。こうした状況の中、キャンパスに行かなくても授業を受けられるバーチャルキャンパス環境が考えられてきている。本分科会では、通信教育部においてバーチャルキャンパスを整備し、スクーリング以外ではキャンパスに行く必要がなく、時間と距離を意識しない教育を先進的に実施されている大学の例を成果や問題点も併せて紹介いただき、通常の通学生に対する発展を含めて参加者と共に討議を深めていきたい。

#### C：電子化教材作成のための支援環境

課題提起者：高橋 誠氏（大阪学院大学庶務課メディア係）

杉山 恵子氏（中部大学学術情報センター）

効果的な授業を行うために、学内Webページに教材資料を掲載して学生がいつでも閲覧可能にすることが多くの大学で行われている。しかしながら、テキストや画像だけでなく、音声や映像の編集・制作といったマルチメディアを活用した教材コンテンツを作成することや、教材をWebページへ登録・更新したりデータベース化して蓄積することは、教員個人の自助努力や試行錯誤に負うところが多く、不慣れな教員には多大な負担となっている。そのためにWeb作成ツールなどが使用されるが、その利用にあたっては専門的なサポートが必要となる。本分科会では、これらの電子化教材作成管理の支援環境に関して、先進的な二つの大学の実施例を紹介して頂き参加者と共に討議を深めていきたい。

#### D：デジタル・キャンパスと統合メディアセンターの役割と展望

課題提起者：濱中 正邦氏（青山学院大学事務システム室室長）

大学における教育の情報化は、ネットワークを重視したオープン型へと移行しつつあり、同時に学術コンテンツ・サービスのネットワーク上での展開が求められてきている。例えば、計算センター系部門とネットワーク系部門、さらに図書館部門を「メディア・センター」として、再編・統合し、デジタル・メディアを前提とした新しい学習環境（学習空間）作りを目指している大学が見受けられる。

今回は、2003年4月に開校される青山学院大学の新キャンパスの核となっている「メディア・センター構想」の紹介を受けながら、その情報化システム（CYBER UNIVERSITY SYSTEM）や教材開発と運用支援のあり方などについて討議する。

[6月22日（土）]

#### E：ネットワーク利用とユーザー教育

課題提起者：江澤 義典氏（関西大学総合情報学部教授）

中芝 義之氏（関西大学情報処理センターシステム管理課主任）

ネットワークの普及にともない、迷惑メールやウィルスソフトなど様々な社会問題が報道される機会が増えてきている。大学においても、情報倫

理教育は必要であり、ネットワークの運用管理や利用規定などの整備が必須となっている。また、ユーザーにネットワークの不適切な利用をさせないための事前教育や事前措置とともに、運用規則に反する事件が発生した場合の対策も重要である。関西大学のネットワーク運用管理や利用に関する規程、ユーザー支援体制、ユーザー教育、新しい認証システム等について課題提起者から紹介いただき、それをもとに討議する。

F：新たな教育システム：遠隔 e-Learningの試み～キャンパス間・大学間授業とインターネット教育への展開

課題提起者：宮崎 耕氏（同志社大学経済学部教授）

大学間の授業連携・単位互換などの動きの中で、大学間の遠隔共同授業の試みも行われるようになってきた。また、インターネットを利用した対個人の遠隔授業も正式に認められるようになった。本分科会では、遠隔授業やe-Learningについて豊富な経験をお持ちの課題提起者から、遠隔テレビ会議システムなどを利用した教室間の遠隔授業、インターネットを利用した個人対応の授業について、その効用を説明いただき、運用上の諸課題についても明らかにしていただく。優れたコンテンツと高速の通信環境があれば、ハコモノとしての大学はいらなくなるのではないかという考えもある。現時点でのe-Learningの評価とともに、このような将来に向けての論点についても討議したい。

G：教材の電子化促進に向けた権利処理問題

コメンテーター：紋谷 暢男氏（成蹊大学法学部教授）

説明：井端 正臣事務局長（社団法人私立大学情報教育協会）

教材の電子化促進に向けて、知的所有権保護の観点から、素材データの取り扱いや作成教材に対する権利処理について、個々の教員あるいは大学等の組織として適切に対処していくことが求められている。本分科会では、まず、私情協の事業として進行中である「電子著作物権利処理事業」について報告いただくとともに、「教材の電子化促進のための権利処理への留意点」について紹介いただき、今後の権利処理問題に対する認識を深めていきたい。また、参加者の方々から、教材の電子化に伴う権利処理について、様々な疑問点や相談事項を事前に提示いただき、それらに基づいて具体的な対処法や解決策等について論議を深めていきたい。

H：新教科「情報」—— 教員養成の現状と課題

課題提起者：石堂 常世氏（早稲田大学教育学部教授）

西之園晴夫氏（佛教大学教育学部教授）

次年度から始まる高校の新教科「情報」を担う教員養成は、多くの大学で行われるようになってきたが、各大学での取り組みが具体化するにつれて様々な問題点や課題も明らかになりつつある。本分科会では、「情報」

の教員養成課程申請のプロセスや認可を受けてからの状況について、早稲田大学の取り組みを紹介いただく。また、教科「情報」で期待されている教育内容や中等教育における情報教育の現状等を踏まえつつ、大学における教員養成に関わる課題について、佛教大学における状況を紹介いただき、課題提起者、参加者相互に意見交換を行い、理解を深める。

## VIII. キャンパス見学

### (2) 開催結果および次回への準備

参加者は昨年度より23名増員の432名であった。なお、開催結果の詳細は、資料編【資料9. 教育の情報化フォーラム関係資料】を参照されたい。

その後、運営委員会では、参加者からのアンケートを参考にしながら、15年度の開催方針を検討した結果、テーマ別自由討議は、大学におけるネットワークセキュリティポリシー、eラーニングの実践、教育支援環境の構築と運用、ネットワークを活用した学外講師との連携教育、ネットワーク利用支援とユーザ教育、電子化教材作成の支援組織、海外でのIT化の現状と日本の大学の課題、新たな展開に向けたリテラシー教育などのテーマを設定することを決定した。全体会は「教育のオープン化とIT活用」と題して、同志社大学の戸高敏之氏より講演いただくことにした。また、会場を中部大学として平成15年6月20日、21日に開催することにした。